



**Cisco Unified Communications Manager,  
Release 9.0(1) IM and Presence サービス用 IP ア  
ドレス / ドメイン / ホスト名**

2012 年 7 月 19 日

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 ([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

*Cisco Unified Communications Manager, Release 9.0(1) IM and Presence* サービス用 IP アドレス / ドメイン / ホスト名  
© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## CONTENTS

<b>CHAPTER 1</b>	<b>作業前のチェックリスト 1-1</b>
<b>CHAPTER 2</b>	<b>IP アドレスで定義したサーバの IP アドレスの変更 2-1</b> IP アドレスで定義したパブリッシャ サーバの変更 2-1 IP アドレスで定義されたサブスクリバ サーバの変更 2-5
<b>CHAPTER 3</b>	<b>ホスト名 /FQDN で定義されたサーバの IP アドレスの変更 3-1</b> ホスト名 /FQDN で定義されたパブリッシャ サーバの変更 3-1 ホスト名 /FQDN で定義されたサブスクリバ サーバの変更 3-4
<b>CHAPTER 4</b>	<b>サーバ ホスト名 /FQDN の変更 4-1</b> パブリッシャ サーバ ホスト名の変更 4-1 サブスクリバ サーバ ホスト名の変更 4-3
<b>CHAPTER 5</b>	<b>変更後の作業リスト 5-1</b>
<b>CHAPTER 6</b>	<b>IM and Presence クラスタの SIP ドメインの変更 6-1</b> デフォルトのドメイン値の置換 6-1 ドメイン値の変更 6-2
<b>CHAPTER 7</b>	<b>IP アドレス変更後の IM and Presence および MOC 相互運用性の検証 7-1</b>
<b>CHAPTER 8</b>	<b>マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート 8-1</b> シスコ製品のセキュリティ 8-1





# CHAPTER 1

## 作業前のチェックリスト

このマニュアルでは、IM and Presence サーバの IP アドレスまたはホスト名を変更する手順を説明します。この IP アドレスの変更が必要になる理由として、サーバを別のクラスタに移動する場合や IP アドレスが重複している問題を解決する場合など、さまざまな状況が考えられます。



**警告**

**これらの手順は、スケジュールしたメンテナンス時間内に実行する必要があります。**

次の作業を実行して、ご使用のシステムで IP アドレスまたはホスト名の変更が可能であることを確認します。



**注意**

アドレスの変更が可能であることを示す結果がこの作業の実行で得られない場合は、見つかった問題をすべて解決するまでこの手順を実行しないようにします。



**(注)**

ネットワークでドメイン ネーム システム (DNS) を使用する場合は、IP アドレスを変更する前に次の条件を確認します。

- 順方向および逆方向のルックアップゾーンが設定されている。
- DNS が到達可能であり、稼働している。

### 手順

#### ステップ 1

クラスタにあるすべてのサーバを調べ、それらのノードの定義で IP アドレスを使用しているか、ホスト名を使用しているかを確認します。

- 最初のノードの Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、[システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。
- [クラスタ トポロジの詳細 (Cluster Topology Details)] ウィンドウの左フレームで、使用可能なサーバのリストを確認します。
- 後で参照できるように、使用可能なサーバのリストを記録しておきます。

#### ステップ 2

クラスタにあるノードごとに、ホスト名と IP アドレスの両方のリストが保存されていることを確認します。

#### ステップ 3

アクティブな ServerDown 警告が発生していないか調べ、クラスタにあるすべてのサーバが正常に稼働していて、利用可能であることを確認します。これは、パブリッシャ ノードで次のコマンドを入力することによって実行できます。

```
file search activelog syslog/CiscoSyslog ServerDown
```

- ステップ 4** データベース レプリケーションのステータスを調べ、すべてのサーバでデータベースの変更内容が正常に複製されていることを確認します。パブリッシャ ノードに次の CLI コマンドを入力します。

```
utils dbreplication runtimestate
```

サンプル出力は次のとおりです。

```
DB and Replication Services: ALL RUNNING
```

```
Cluster Replication State: Replication status command started at: 2012-02-26-09-40
Replication status command COMPLETED 269 tables checked out of 269
No Errors or Mismatches found.
```

Use 'file view activelog cm/trace/dbl/sdi/ReplicationStatus.2012\_02\_26\_09\_40\_34.out' to see the details

```
DB Version: ccm8_6_3_10000_23
Number of replicated tables: 269
```

Cluster Detailed View from PUB (2 Servers):

SERVER-NAME	IP ADDRESS	PING (msec)	RPC?	REPLICATION STATUS	REPL. QUEUE	DBver& TABLES	REPL. LOOP?	REPLICATION SETUP (RTMT) & details
gwydla020218	10.53.46.130	0.038	Yes	Connected	0	match	Yes	(2) PUB Setup Completed
gwydla020220	10.53.46.133	0.248	Yes	Connected	128	match	Yes	(2) Setup Completed



- (注)** すべての REPLICATION SETUP (RTMT) & details で、状態 2 が報告されていることを必ず確認してください。2 以外の場合は、データベース複製に問題があることを示しています。

- ステップ 5** ネットワーク接続と DNS サーバ設定を確認します。確認するには、次の例に示す CLI コマンドを入力します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
admin:
```

- ステップ 6** 手動で DRS バックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなすべてのサービスが正しくバックアップされていることを確認します。
- ステップ 7** ホスト名と IP アドレスを変更する前に、ハイアベイラビリティ (HA) が有効になっている場合は、すべてのサブクラスターの HA を無効にします。Cisco Unified CM IM and Presence の管理で、[ システム (System) ] > [ クラスター トポロジ (Cluster Topology) ] を選択します。HA を無効にする方法の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ステップ 8** 変更されるパブリッシャ/サブスクリバノードがクラスター間ピアである各クラスターで、クラスター間ピアのリストからパブリッシャ/サブスクリバのクラスターを削除します。

たとえば、ClusterA、ClusterB および ClusterC はすべてクラスター間ピアです。ここでは、ClusterA のパブリッシャ ノードでホスト名を変更します。まず、ClusterB および ClusterC の両方のクラスター間ピアのリストから、ClusterA のパブリッシャ ノードを削除する必要があります。

- ステップ 9** 各クラスタにある最初のサブクラスタのパブリッシャ ノードおよびサブスライバ ノードで、Cisco Intercluster Sync Agent を再起動します。
- ステップ 10** Cisco Unified CM IM and Presence の管理 GUI の通知によって、再起動が必要であることが示された場合は、クラスタにあるすべてのノードで Cisco XCP Router を再起動します。
- ステップ 11** IM and Presence リリース 9.0 以降では、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を含むシングル サインオン (SSO) 機能を IM and Presence インターフェイスで使用できます。IM and Presence サーバのホスト名は、SSO が正しく機能するための重要な情報です。シスコは、IM and Presence サーバのホスト名を変更する前に、SSO を無効にするよう推奨しています。ホスト名を変更した後に、新しいホスト名を使用して SSO を再び有効にできます。SSO の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』の「Single Sign-On Configuration」の項を参照してください。



**(注)** SSO を無効にした後に IM and Presence にアクセスするには、ログイン クレデンシャルを入力する必要があることに注意してください。SSO を無効にする前に、ログイン クレデンシャルを記録してください。ログイン情報を忘れた場合は、IM and Presence アプリケーションからロックアウトされる可能性があります。

- ステップ 12** 次の IM and Presence サービスを停止するには、クラスタにあるすべてのノードで次の CLI コマンドを実行します。
- `utils service stop Cisco Config Agent`
  - `utils service stop Cisco Intercluster Sync Agent`
  - `utils service stop Cisco Client Profile Agent`
  - `utils service stop Cisco Presence Engine`
  - `utils service stop Cisco OAM Agent`
  - `utils service stop Cisco SIP Proxy`
  - `utils service stop Cisco Sync Agent`
  - `utils service stop Cisco XCP Router`
  - `utils service stop Cisco Presence Datastore`
  - `utils service stop Cisco SIP Registration Datastore`
  - `utils service stop Cisco Login Datastore`
  - `utils service stop Cisco Route Datastore`
  - `utils service stop Cisco XCP Config Manager`

#### トラブルシューティングのヒント

IP アドレスまたはホスト名を変更する前にこれらのサービスを適切にシャットダウンできなかった場合は、名前変更のプロセス中に誤った警告およびコア ダンプがトリガーされる可能性があります。この手順を誤ってスキップし、結果として警告やコアが生成された場合は、手動でこれらをクリアし、CLI コマンド `file delete activelog core` によってコアを削除する必要があります。

#### 関連項目

『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』

『*Disaster Recovery System Guide*』







## CHAPTER 2

# IP アドレスで定義したサーバの IP アドレスの変更

- 「IP アドレスで定義したパブリッシャ サーバの変更」(P.2-1)
- 「IP アドレスで定義されたサブスクリバ サーバの変更」(P.2-5)

ここでは、IP アドレスで定義したサーバの IP アドレスを変更する方法について説明します。



**注意**

IM and Presence クラスタにあるどのノードで IP アドレスを変更しても、プレゼンス サービスやその他のシステム機能が中断する可能性があります。また、IP アドレスの変更によって、ServerDown や SDLLinkOSS などの特定のアラームや警告が発生することや、バックアップ サーバへの自動的なフェールオーバーが機能しなくなることもあり得ます。このような影響の発生が考えられるので、IP アドレスの変更は、定期的なメンテナンスの時間帯で実施する必要があります。

## IP アドレスで定義したパブリッシャ サーバの変更

IP アドレスで各サーバを定義している場合に、パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには、ここに示す手順を使用します。



**(注)**

この手順を使用して、サブスクリバ ホストのパブリッシャ サーバを別のパブリッシャ サーバに変更することはできません。

### はじめる前に

- 「作業前のチェックリスト」(P.1-1) を参照してください。
- パブリッシャ IP アドレスを変更する前に、サブスクリバ ノードの IP アドレスが変更されていること (必要な場合) を確認します。



**注意**

ゲートウェイ アドレスを変更する必要がある場合は、IP アドレスを変更する *前* に実行する必要があります。IP アドレスを最初に変更する場合は、IM and Presence サーバが即座に再起動するため、ゲートウェイを変更できません。

## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、パブリッシャ サーバで次の作業を実行します。
- [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。
  - [サブクラスタ (Subcluster)] セクションにあるパブリッシャ サーバの下で、[編集 (Edit)] を選択します。
  - [ノード設定 (Node Configuration)] の下にある IM and Presence サーバの IP アドレスを変更します。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager の管理から次の作業を実行し、パブリッシャ サーバ上で新しい IP アドレスを反映します。
- [システム (System)] > [アプリケーション サーバ (Application Server)] を選択します。
  - [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウから [検索 (Find)] を選択し、サブスクライバ サーバを表示します。
  - サブスクライバ サーバを選択します。
  - [アプリケーション サーバ情報 (Application Server Information)] の下にある IM and Presence サーバの IP アドレスを変更します。



(注) リリース 7.03 以降では、IM and Presence は IP アドレスの変更を自動的に試行します。ただし、エントリを確認し、正しい値が自動的に入力されない場合はエントリを変更する必要があります。

- ステップ 3** 各サブスクライバ ノードで次の確認を実行し、クラスタ内のすべてのサブスクライバ ノードに IP アドレスの変更が複製されていることを確認します。

使用する手段	アクション
Cisco Unified CM IM and Presence の管理	<p>Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、次の作業を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[システム (System)] &gt; [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。</li> <li>サブスクライバ サーバの下で、[編集 (Edit)] をクリックします。</li> <li>[ノード設定 (Node Configuration)] ウィンドウで IP アドレスを確認します。</li> </ol>
CLI コマンド	<ol style="list-style-type: none"> <li>CLI コマンド <code>run sql select name,nodeid from ProcessNode</code> を入力します。</li> </ol> <p>次の出力が表示されます。</p> <pre>admin: run sql select name,nodeid from ProcessNode name                nodeid ===== EnterpriseWideData 1 10.3.90.21          4 10.3.90.5           2</pre>

**ステップ 4** 次の作業を実行して、クラスタにある各サブスクリバサーバのパブリッシャサーバの IP アドレスを変更します。

使用する手段	アクション
Cisco Unified IM and Presence オペレーティングシステムの管理	<p><b>a.</b> 次の URL を使用して、各サブスクリバサーバを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- <code>http://subscriber_ip_address/cmplatform</code></li> </ul> <p><b>b.</b> Cisco Unified IM and Presence オペレーティングシステムの管理で、次の作業を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [パブリッシャ (Publisher)] を選択します。</li> <li>• パブリッシャサーバの IP アドレスを変更します。</li> </ul>
CLI コマンド	<p><b>a.</b> 次のコマンドを入力します。</p> <pre>set network cluster publisher ip. ip_address</pre> <p><b>b.</b> <b>Yes</b> と入力して <b>Enter</b> キーを押します。サーバが自動的に再起動します。</p>

- ステップ 5** 次の作業を実行して、パブリッシャ サーバの IP アドレスとデフォルトのゲートウェイ（必要な場合）の IP アドレスを新しいアドレスに変更します。

使用する手段	アクション
Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理	<p>Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理から、次の作業を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [イーサネット (Ethernet)] を選択します。</li> <li>新しい IP アドレスを入力します。</li> <li>新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、新しいデフォルトのゲートウェイアドレスを入力します。</li> <li>[保存 (Save)] を選択します。サーバが自動的に再起動します。</li> </ol>
CLI コマンド	<ol style="list-style-type: none"> <li>新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、CLI コマンド <b>set network gateway</b> を入力します。 次の出力が表示されます。  <pre>admin:set network gateway 10.3.90.2 ***  W A R N I N G  *** This will cause the system to temporarily lose network connectivity  Do you want to continue ?  Enter "yes" to continue or any other key to abort</pre> </li> <li><b>yes</b> と入力して <b>Enter</b> キーを押します。</li> <li>パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには、CLI コマンド <b>set network ip eth0 ip_address netmask</b> を入力します。 このコマンドでは、サーバの新しい IP アドレスを <i>ip_address</i> で指定し、サーバの新しいネットワーク マスクを <i>netmask</i> で指定します。 次の出力が表示されます。  <pre>admin: set network ip eth0 10.3.90.21 255.255.254.0 ***  W A R N I N G  *** If there are IP addresses (not hostnames) configured in CallManager Administration under System -&gt; Servers then you must change the IP address there BEFORE changing it here or call processing will fail. This will cause the system to restart ===== Note: To recognize the new IP address all nodes within the cluster will have to be manually rebooted. ===== Do you want to continue? Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort</pre> </li> <li><b>yes</b> と入力して <b>Enter</b> キーを押します。</li> </ol>

- ステップ 6** パブリッシュ サーバが自動的に起動した後、すべてのサブスクリバサーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルを更新します。

#### トラブルシューティングのヒント

- IM and Presence サーバのゲートウェイおよび IP アドレスの変更に加えて、スイッチを変更した場合は、サーバが自動的に再起動している間に以下の手順を実行します。実行しないと、起動時に IM and Presence スクリプトがネットワーク接続の確認に失敗する可能性があります。
  - 再起動画面を確認する
  - 古い IP アドレスに `ping -t` と入力する
  - ping に失敗するようになったら、古いスイッチから接続を解除し、新しいスイッチに接続する
- データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルおよびサービスは、システムの起動時にのみ更新されます。ファイルを更新した後で、Cisco DB および Cisco Tomcat などのコアネットワークサービスを再起動する必要があります。サーバを再起動することで、更新とサービス再起動のシーケンスを適切に実行して、IP アドレスの変更を有効にすることができます。

#### 関連トピック

- 『Disaster Recovery System Guide』
- 『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』

#### 次の作業

[「変更後の作業リスト」\(P.5-1\)](#)

## IP アドレスで定義されたサブスクリバサーバの変更

IP アドレスで各サーバを定義している場合にサブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには、ここに示す手順を使用します。IP アドレスを正しく変更するには、この手順のすべての作業を完了する必要があります。

#### はじめる前に

[「変更後の作業リスト」\(P.5-1\)](#)



#### 注意

ゲートウェイアドレスを変更する必要がある場合は、IP アドレスを変更する前に実行する必要があります。IP アドレスを最初に変更する場合は、IM and Presence サーバが即座に再起動するため、ゲートウェイを変更できません。

#### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、サブスクリバサーバで次の作業を実行します。
- a. [システム (System)] > [クラスタトポロジ (Cluster Topology)] を選択します。
  - b. [サブクラスタ (Subclusters)] セクションにあるサブスクリバサーバの下で、[編集 (Edit)] を選択します。
  - c. [ノード設定 (Node Configuration)] セクションにある IM and Presence サーバの IP アドレスを変更します。

**ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager の管理から次の作業を実行し、サブスクリバサーバ上で新しい IP アドレスを反映します。

- a. [システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)] を選択します。
- b. [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウから [検索 (Find)] を選択し、サブスクリバサーバを表示します。
- c. サブスクリバサーバを選択します。
- d. [アプリケーションサーバ情報 (Application Server Information)] の下にある IM and Presence サーバの IP アドレスを変更します。



(注) リリース 7.03 以降では、IM and Presence は IP アドレスの変更を自動的に試行します。ただし、エントリーを確認し、正しい値が自動的に入力されない場合はエントリーを変更する必要があります。

**ステップ 3** 次の作業を実行して、IP アドレスの変更がクラスタ内のすべてのノードに複製されることを確認します。

使用する手段	アクション
Cisco Unified CM IM and Presence の管理	<p>Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、次の作業を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [システム (System)] &gt; [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。</li> <li>b. サブスクリバサーバの下で、[編集 (Edit)] をクリックします。</li> <li>c. [ノード設定 (Node Configuration)] ウィンドウで IP アドレスを確認します。</li> </ol>
CLI コマンド	<p>CLI コマンド <code>run sql select name,nodeid from ProcessNode</code> を入力します。</p> <p>このコマンドの出力例を次に示します。</p> <pre>admin: run sql select name,nodeid from ProcessNode name                nodeid ===== EnterpriseWideData 1 10.3.90.21          4 10.3.90.5           2</pre>

**ステップ 4** 必要に応じて、クラスタにあるすべてのサブスクリバノードで、ステップ 1～3 を繰り返します。

**ステップ 5** 次の作業を実行して、サブスクリバサーバの IP アドレスとデフォルトのゲートウェイ (必要な場合) の IP アドレスを新しいアドレスに変更します。

使用する手段	アクション	トラブルシューティングのヒント
Cisco Unified IM and Presence オペレーティングシステムの管理	<p>Cisco Unified IM and Presence オペレーティングシステムの管理から、次の作業を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [イーサネット (Ethernet)] を選択します。</li> <li>新しい IP アドレスを入力します。</li> <li>新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、新しいデフォルトのゲートウェイ アドレスを入力します。</li> <li>[保存 (Save)] を選択します。サーバが自動的に再起動します。</li> </ol>	<p>2 つ以上のサブスクリバサーバの IP アドレスを変更する場合は、次の作業を実行することを推奨します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一度に 1 つのサーバの IP アドレスを変更します。</li> <li>パブリッシュサーバも含め、クラスタにある他のすべてのサーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルを更新します。</li> </ol>
CLI コマンド	<ol style="list-style-type: none"> <li>新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、CLI コマンド <code>set network gateway</code> を入力します。 次の出力が表示されます。 <pre>admin:set network gateway 10.3.90.2 *** WARNING *** This will cause the system to temporarily lose network connectivity  Do you want to continue ?  Enter "yes" to continue or any other key to abort</pre></li> <li><b>yes</b> と入力して <b>Enter</b> キーを押します。</li> <li>サブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには、CLI コマンド <code>set network ip eth0</code> <code>ip_address netmask</code> を入力します このコマンドでは、サーバの新しい IP アドレスを <code>ip_address</code> で指定し、サーバの新しいネットワークマスクを <code>netmask</code> で指定します。 次の出力が表示されます。 <pre>admin: set network ip eth0 10.3.90.21 255.255.254.0 *** WARNING *** If there are IP addresses (not hostnames) configured in CallManager Administration under System -&gt; Servers then you must change the IP address there BEFORE changing it here or call processing will fail. This will cause the system to restart ===== Note: To recognize the new IP address all nodes within the cluster will have to be manually rebooted. ===== Do you want to continue? Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort</pre></li> <li><b>yes</b> と入力して <b>Enter</b> キーを押します。</li> </ol>	<p><b>注意：</b> 2 つ以上のサーバの IP アドレスを同時に変更すると、クラスタ内のローカル名前解決ファイルの同期が失われる可能性があるため、2 つ以上のサーバの IP アドレスを同時に変更しないでください。</p>

**ステップ 6** データベース複製の結果を確認します。

- 変更した IP アドレスがクラスタ全体で正しく伝搬されている場合は、[ステップ 5](#)に戻り、次のサブスクリバサーバで手順を完了します。
- 変更した IP アドレスがクラスタ内の他のサーバに伝搬されていない場合は、パブリッシャ ノードで次のコマンドを入力します。

```
user utils dbreplication runtimestate
```

新しい IP アドレスが一覧表示され、クラスタ内のすべてのノードの複製状態が 2 であることを確認します。

**トラブルシューティングのヒント**

- **IM and Presence** サーバのゲートウェイおよび IP アドレスの変更に加えて、スイッチを変更した場合は、サーバが自動的に再起動している間に以下の手順を実行します。実行しないと、起動時に **IM and Presence** スクリプトがネットワーク接続の確認に失敗する可能性があります。
  - 再起動画面を確認する
  - 古い IP アドレスに `ping -t` と入力する
  - ping に失敗するようになったら、古いスイッチから接続を解除し、新しいスイッチに接続する
- データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルは、システムの起動時にのみ更新されます。ファイルを更新した後で、**Cisco DB** および **Cisco Tomcat** などのコア ネットワーク サービスを再起動する必要があります。サーバを再起動することで、更新とサービス再起動のシーケンスを適切に実行して、IP アドレスの変更を有効にすることができます。

**関連トピック**

- 『*Disaster Recovery System Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』

**次の作業**

「変更後の作業リスト」(P.5-1)





## CHAPTER 3

# ホスト名 /FQDN で定義されたサーバの IP アドレスの変更

- 「ホスト名 /FQDN で定義されたパブリッシャ サーバの変更」 (P.3-1)
- 「ホスト名 /FQDN で定義されたサブスクリバ サーバの変更」 (P.3-4)



### 注意

特定のホスト名を持つサーバで DRS バックアップを作成した場合は、別のホスト名を持つサーバには復元できません。これは復元先のサーバがパブリッシャ サーバでもサブスクリバ サーバでも同様です。また、そのノードを再インストールしても復元はできません。

## ホスト名 /FQDN で定義されたパブリッシャ サーバの変更

ホスト名で各サーバを定義している場合にパブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには、ここに示す手順を使用します。DNS サーバは、ネットワーク インフラストラクチャを構成する要素の 1 つです。IM and Presence サーバは、DNS サービスを実行せず、また実行することもできません。



### (注)

この手順を使用して、サブスクリバ ホストのパブリッシャ サーバを別のパブリッシャ サーバに変更することはできません。

### はじめる前に

「作業前のチェックリスト」 (P.1-1)

### 手順

- ステップ 1** 次の操作を実行します。
- a. 新しい IP アドレスを指すようにパブリッシャ サーバの DNS レコードを変更します。
  - b. 必ず順方向 (A) レコードと逆方向 (PTR) レコードの両方を正しく更新します。
- ステップ 2** クラスタにある各サブスクリバ ノードで、Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理にアクセスし、次の作業を実行します。
- a. [設定 (Settings)] > [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] を選択します。
  - b. パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
- ステップ 3** 次の作業を実行して、パブリッシャ サーバの IP アドレスとデフォルトのゲートウェイ (必要な場合) の IP アドレスを新しいアドレスに変更します。

使用する手段	アクション
Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの 管理	<p>Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理から、次の作業を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [イーサネット (Ethernet)] を選択します。</li> <li>新しい IP アドレスを入力します。</li> <li>新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、新しいデフォルトのゲートウェイ アドレスを入力します。</li> <li>[保存 (Save)] を選択します。サーバが自動的に再起動します。</li> </ol>
CLI コマンド	<ol style="list-style-type: none"> <li>新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、CLI コマンド <b>set network gateway</b> を入力します。 次の出力が表示されます。 <pre>admin:set network gateway 10.3.90.2 *** W A R N I N G *** This will cause the system to temporarily lose network connectivity  Do you want to continue ?  Enter "yes" to continue or any other key to abort</pre></li> <li><b>yes</b> と入力して <b>Enter</b> キーを押します。</li> <li>パブリッシャサーバの IP アドレスを変更するには、CLI コマンド <b>set network ip eth0 ip_address netmask</b> を入力します このコマンドでは、サーバの新しい IP アドレスを <i>ip_address</i> で指定し、サーバの新しいネットワーク マスクを <i>netmask</i> で指定します。 次の出力が表示されます。 <pre>admin: set network ip eth0 10.3.90.21 255.255.254.0 *** W A R N I N G *** If there are IP addresses (not hostnames) configured in CallManager Administration under System -&gt; Servers then you must change the IP address there BEFORE changing it here or call processing will fail. This will cause the system to restart ===== Note: To recognize the new IP address all nodes within the cluster will have to be manually rebooted. ===== Do you want to continue? Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort</pre></li> <li><b>yes</b> と入力して <b>Enter</b> キーを押します。</li> </ol>

**ステップ 4** パブリッシャサーバが自動的に再起動した後、すべてのサブスクリバサーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイル、およびサービスを更新します。

**ステップ 5** CLI コマンドの **utils network host** および **show tech network hosts** を実行し、サブスクリバノードのローカル解決が新しい IP アドレスにも解決されることを確認します。

```
admin:utils network host lg-sub-4
Hostname lg-sub-4 resolves to 14.86.13.11

admin:show tech network hosts
----- show platform network -----

/etc/hosts File:
#This file was generated by the /etc/hosts cluster manager.
#It is automatically updated as nodes are added, changed, removed from the cluster.

127.0.0.1 localhost
14.87.10.10 lg-pub-1.lindermangroup.cisco.com lg-pub-1
14.87.10.11 lg-tftp-1.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-1
14.87.10.12 lg-tftp-2.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-2
14.87.11.10 lg-sub-1.lindermangroup.cisco.com lg-sub-1
14.87.11.11 lg-sub-3.lindermangroup.cisco.com lg-sub-3
14.86.13.10 lg-sub-2.lindermangroup.cisco.com lg-sub-2
14.86.13.11 lg-sub-4.lindermangroup.cisco.com lg-sub-4
14.87.11.12 lg-sub-5.lindermangroup.cisco.com lg-sub-5
14.87.11.13 lg-sub-7.lindermangroup.cisco.com lg-sub-7
14.86.13.12 lg-tftp-3.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-3
14.87.20.20 lg-cups1.heroes.com lg-cups1
14.86.13.13 lg-sub-6.lindermangroup.cisco.com lg-sub-6
admin:
```

**ステップ 6** パブリッシャサーバも含め、クラスタにある他のすべてのサーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルを更新します。

#### トラブルシューティングのヒント

- **IM and Presence** サーバのゲートウェイおよび IP アドレスの変更に加えて、スイッチを変更した場合は、サーバが自動的に再起動している間に以下の手順を実行します。実行しないと、起動時に **IM and Presence** スクリプトがネットワーク接続の確認に失敗する可能性があります。
  - 再起動画面を確認する
  - 古い IP アドレスに `ping -t` と入力する
  - `ping` に失敗するようになったら、古いスイッチから接続を解除し、新しいスイッチに接続する
- データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルおよびサービスは、システムの起動時にのみ更新されます。ファイルを更新した後で、**Cisco DB** および **Cisco Tomcat** などのコアネットワークサービスを再起動する必要があります。サーバを再起動することで、更新とサービス再起動のシーケンスを適切に実行して、IP アドレスの変更を有効にすることができます。

#### 関連トピック

- 『*Disaster Recovery System Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』

#### 次の作業

「変更後の作業リスト」(P.5-1)

## ホスト名/FQDN で定義されたサブスクリバサーバの変更

ホスト名で各サーバを定義している場合にサブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには、ここに示す手順を使用します。DNS サーバは、ネットワーク インフラストラクチャを構成する要素の 1 つです。IM and Presence サーバは、DNS サービスを実行せず、また実行することもできません。

2 つ以上のサブスクリバサーバの IP アドレスを変更する場合は、次の作業を実行することを推奨します。

- a. 一度に 1 つのサーバの IP アドレスを変更します。
- b. パブリッシャ サーバも含め、クラスタにある他のすべてのサーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルを更新します。



### 注意

2 つ以上のサーバの IP アドレスを同時に変更すると、クラスタ内のローカル名前解決ファイルの同期が失われる可能性があるため、2 つ以上のサーバの IP アドレスを同時に変更しないでください。

### はじめる前に

[「作業前のチェックリスト」\(P.1-1\)](#)

### 手順

- ステップ 1** 次の操作を実行します。
  - a. 新しい IP アドレスを指すようにサブスクリバサーバの DNS レコードを変更します。
  - b. 必ず順方向 (A) レコードと逆方向 (PTR) レコードの両方を正しく更新します。
  - c. DNS キャッシュをリフレッシュして、レコードが正しく更新されていることを確認します。
- ステップ 2** 次の作業を実行して、サブスクリバサーバの IP アドレスとデフォルトのゲートウェイ (必要な場合) の IP アドレスを新しいアドレスに変更します。

使用する手段	アクション
Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理	<p>Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理から、次の作業を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [イーサネット (Ethernet)] を選択します。</li> <li>新しい IP アドレスを入力します。</li> <li>新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、新しいデフォルトのゲートウェイアドレスを入力します。</li> <li>[保存 (Save)] を選択します。サーバが自動的に再起動します。</li> </ol>
CLI コマンド	<ol style="list-style-type: none"> <li>新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、CLI コマンド <code>set network gateway</code> を入力します。</li> </ol> <p>次の出力が表示されます。</p> <pre>admin:set network gateway 10.3.90.2 *** WARNING *** This will cause the system to temporarily lose network connectivity  Do you want to continue ?  Enter "yes" to continue or any other key to abort</pre> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>yes</b> と入力して <b>Enter</b> キーを押します。</li> <li>サブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには、CLI コマンド <code>set network ip eth0 ip_address netmask</code> を入力します</li> </ol> <p>このコマンドでは、サーバの新しい IP アドレスを <code>ip_address</code> で指定し、サーバの新しいネットワーク マスクを <code>netmask</code> で指定します。</p> <p>次の出力が表示されます。</p> <pre>admin: set network ip eth0 10.3.90.21 255.255.254.0 *** WARNING *** If there are IP addresses (not hostnames) configured in CallManager Administration under System -&gt; Servers then you must change the IP address there BEFORE changing it here or call processing will fail. This will cause the system to restart ===== Note: To recognize the new IP address all nodes within the cluster will have to be manually rebooted. ===== Do you want to continue? Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort</pre> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>yes</b> と入力して <b>Enter</b> キーを押します。</li> </ol>

**ステップ 3** すべてのクラスタ ノードで CLI コマンドの `utils network host` および `show tech network hosts` を使用して、DNS の変更が他のノードに伝搬されていることを確認します。

```
admin:utils network host lg-sub-4
Hostname lg-sub-4 resolves to 14.86.13.11

admin:show tech network hosts
----- show platform network -----

/etc/hosts File:
```

```
#This file was generated by the /etc/hosts cluster manager.
#It is automatically updated as nodes are added, changed, removed from the cluster.

127.0.0.1 localhost
14.87.10.10 lg-pub-1.lindermangroup.cisco.com lg-pub-1
14.87.10.11 lg-tftp-1.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-1
14.87.10.12 lg-tftp-2.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-2
14.87.11.10 lg-sub-1.lindermangroup.cisco.com lg-sub-1
14.87.11.11 lg-sub-3.lindermangroup.cisco.com lg-sub-3
14.86.13.10 lg-sub-2.lindermangroup.cisco.com lg-sub-2
14.86.13.11 lg-sub-4.lindermangroup.cisco.com lg-sub-4
14.87.11.12 lg-sub-5.lindermangroup.cisco.com lg-sub-5
14.87.11.13 lg-sub-7.lindermangroup.cisco.com lg-sub-7
14.86.13.12 lg-tftp-3.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-3
14.87.20.20 lg-cups1.heroes.com lg-cups1
14.86.13.13 lg-sub-6.lindermangroup.cisco.com lg-sub-6
admin:
```

**ステップ 4** 次の作業を実行して、データベース複製の結果を確認します。

- a. `user utils dbreplication runtimestate` コマンドを入力します。
- b. 新しい IP アドレスが一覧表示され、クラスタ内のすべてのノードの複製状態が 2 であることを確認します。

**ステップ 5** パブリッシャ サーバも含め、クラスタにある他のすべてのサーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルを更新します。

#### トラブルシューティングのヒント

- IM and Presence サーバのゲートウェイおよび IP アドレスの変更に加えて、スイッチを変更した場合は、サーバが自動的に再起動している間に以下の手順を実行します。実行しないと、起動時に IM and Presence スクリプトがネットワーク接続の確認に失敗する可能性があります。
  - 再起動画面を確認する
  - 古い IP アドレスに `ping -t` と入力する
  - ping に失敗するようになったら、古いスイッチから接続を解除し、新しいスイッチに接続する
- データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルおよびサービスは、システムの起動時にのみ更新されます。ファイルを更新した後で、Cisco DB および Cisco Tomcat などのコアネットワークサービスを再起動する必要があります。サーバを再起動することで、更新とサービス再起動のシーケンスを適切に実行して、IP アドレスの変更を有効にすることができます。

#### 関連トピック

- 『*Disaster Recovery System Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』

#### 次の作業

「変更後の作業リスト」(P.5-1)



## CHAPTER 4

# サーバ ホスト名 /FQDN の変更

- 「パブリッシャ サーバ ホスト名の変更」(P.4-1)
- 「サブスクライバ サーバ ホスト名の変更」(P.4-3)

## パブリッシャ サーバ ホスト名の変更

クラスタにあるパブリッシャ サーバのホスト名を変更するには、次の手順を実行します。DNS サーバは、ネットワーク インフラストラクチャを構成する要素の 1 つです。IM and Presence サーバは、DNS サービスを実行せず、また実行することもできません。

### はじめる前に

「作業前のチェックリスト」(P.1-1) を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** 次の操作を実行します。

- パブリッシャ サーバの DNS レコードを、新しいホスト名、たとえば `newhost1` を指すように変更します（説明上、この手順では、CLI コマンド例で `newhost1` を使用）。
- 必ず順方向（A）レコードと逆方向（PTR）レコードの両方を正しく更新します。

**ステップ 2** すべてのクラスタ ノードで次の CLI コマンドを実行することにより、DNS の変更が他のノードに伝搬されていることを確認します。

```
utils network host newhost1
```

ここで、`newhost1` は新しいホスト名を意味します。

このコマンドの出力は次のようになります。

```
admin:utils network host newhost1
Hostname newhost1 resolves to 14.86.13.11
```

**ステップ 3** Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、パブリッシャ サーバで次の作業を実行します。

- [ システム (System) ] > [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] を選択します。
- [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] ツリービューからパブリッシャ ノードを選択します。
- [ ノード設定 (Node Configuration) ] セクションで、IM and Presence サーバのホスト名を変更します。
- [ 保存 (Save) ] を選択します。

**ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager の管理から、次の作業を実行します。

- a. [システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)] を選択します。
- b. [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウで [検索 (Find)] を選択し、サーバを表示します。
- c. サーバ群の中に新しいホスト名がリストされていることを確認します。



(注) サーバのリスト内に新しいホスト名が存在しない場合には、先に進まないでください。

**ステップ 5** ホスト名の変更が、クラスタ内のすべてのノードに複製されることを確認します。そのためには、クラスタ内のすべてのノードで CLI から次のコマンドを入力します。

```
run sql select name,nodeid from ProcessNode
```



(注) ホスト名がクラスタ内のすべてのノードに複製されていない場合には、先に進まないでください。

**ステップ 6** 各サブスクリバサーバに対して CLI で次のコマンドを入力することにより、クラスタ内の各サブスクリバサーバ上のパブリッシャサーバのホスト名を変更します。

```
set network cluster publisher hostname <new_hostname>
```

次に例を示します。

```
set network cluster publisher hostname newhost1
```

**ステップ 7** パブリッシャサーバ上で、サーバのホスト名を次のように変更します。

- a. CLI コマンド `set network hostname newhost1` を入力します。  
ここで、`newhost1` は新しいホスト名を意味します。
- b. **Yes** と入力して **Enter** キーを押します。新しいホスト名を反映してサーバが自動的に再起動します。



(注) ホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。サーバが自動的に再起動しても、CTL クライアントを再実行して CTL ファイルを更新しないと、このサーバへのセキュア接続はできません。

**ステップ 8** パブリッシャノードが再起動した後、次の CLI コマンドですべてのサブスクリバノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 9** すべてのノードが正常に再起動した後、パブリッシャノードで次の CLI コマンドを実行して、レプリケーションをリセットします。

```
utils dbreplication reset all
```



(注) このコマンドの実行には最大 15 分かかります。

**ステップ 10** `utils dbreplication reset all` コマンドが完了した後、次の CLI コマンドでパブリッシャノードを再起動します。

```
utils system restart
```



- ステップ 11** パブリッシャ ノードが再起動した後、次の CLI コマンドでクラスタ内のすべてのサブスクリイバ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

#### 関連トピック

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
- 『Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager』

#### 次の作業

「変更後の作業リスト」(P.5-1)

## サブスクリイバサーバホスト名の変更

クラスタにあるサブスクリイバサーバのホスト名を変更するには、次の手順を実行します。DNS サーバは、ネットワーク インフラストラクチャを構成する要素の 1 つです。IM and Presence サーバは、DNS サービスを実行せず、また実行することもできません。

#### はじめる前に

「作業前のチェックリスト」(P.1-1) を参照してください。

#### 手順

- ステップ 1** 次の操作を実行します。
- サブスクリイバサーバの DNS レコードを、新しいホスト名、たとえば newhost1 を指すように変更します（説明上、この手順では、CLI コマンド例で newhost1 を使用）。
  - 必ず順方向（A）レコードと逆方向（PTR）レコードの両方を正しく更新します。
- ステップ 2** すべてのクラスタ ノードで次の CLI コマンドを実行することにより、DNS の変更が他のノードに伝搬されていることを確認します。
- ```
utils network host newhost1
```
- ここで、newhost1 は新しいホスト名を意味します。
- このコマンドの出力は次のようになります。
- ```
admin:utils network host newhost1
Hostname newhost1 resolves to 14.86.13.11
```
- ステップ 3** Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、パブリッシャ サーバで次の作業を実行します。
- [ システム (System) ] > [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] を選択します。
  - [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] ツリービューからサブスクリイバ ノードを選択します。
  - [ ノード設定 (Node Configuration) ] セクションで、IM and Presence サーバのホスト名を変更します。
  - [ 保存 (Save) ] を選択します。

**ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager の管理から、次の作業を実行します。

- a. [システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)] を選択します。
- b. [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウで [検索 (Find)] を選択し、サーバを表示します。
- c. サーバ群の中に新しいホスト名がリストされていることを確認します。



(注) サーバのリスト内に新しいホスト名が存在しない場合には、先に進まないでください。

**ステップ 5** ホスト名の変更が、クラスタ内のすべてのノードに複製されることを確認します。そのためには、クラスタ内のすべてのノードで CLI から次のコマンドを入力します。

```
run sql select name,nodeid from ProcessNode
```



(注) ホスト名がクラスタ内のすべてのノードに複製されていない場合には、先に進まないでください。

**ステップ 6** サブスクリバサーバ上で、サーバのホスト名を次のように変更します。

- a. CLI コマンド `set network hostname newhost1` を入力します。  
ここで、`newhost1` は新しいホスト名を意味します。
- b. **Yes** と入力して **Enter** キーを押します。新しいホスト名を反映してサーバが自動的に再起動します。



(注) ホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。サーバが自動的に再起動しても、CTL クライアントを再実行して CTL ファイルを更新しないと、このサーバへのセキュア接続はできません。

**ステップ 7** 次のコマンドで、クラスタ内のパブリッシャノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 8** 次のコマンドで、クラスタ内の他のすべてのサブスクリバノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 9** すべてのノードが正常に再起動した後、パブリッシャノードで次の CLI コマンドを実行して、レプリケーションをリセットします。

```
utils dbreplication reset all
```



(注) このコマンドの実行には最大 15 分かかります。

**ステップ 10** `utils dbreplication reset all` コマンドが完了した後、次の CLI コマンドでパブリッシャノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 11** パブリッシャノードが再起動した後、次の CLI コマンドでクラスタ内のすべてのサブスクリバノードを再起動します。

```
utils system restart
```

---

**関連トピック**

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
- 『Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager』

**次の作業**

[「変更後の作業リスト」\(P.5-1\)](#)





# CHAPTER 5

## 変更後の作業リスト

クラスタの IP アドレスまたはホスト名を変更した後で、この手順を完了します。

### 手順

- ステップ 1** アクティブな ServerDown 警告が発生していないか調べ、クラスタにあるすべてのサーバが正常に稼働して、利用可能であることを確認します。パブリッシャ ノードのコマンドライン インターフェイス (CLI) に次のコマンドを入力することにより、アプリケーション イベント ログで ServerDown 警告を確認できます。

```
file search activelog syslog/CiscoSyslog ServerDown
```

- ステップ 2** クラスタにあるすべての IM and Presence ノードでデータベース レプリケーションのステータスを調べ、すべてのサーバがデータベースの変更内容を正常に複製していることを確認します。次の CLI コマンドを使用して確認できます。

```
utils dbreplication runtimestate
```



(注) すべてのノードで、**REPLICATION SETUP (RTMT) & details** の値が 2 である必要があります。

- ステップ 3** 作業前のチェックリストにあるステップ 8 を完了した場合は、パブリッシャ / サブスクリバのホスト名 / IP アドレスが各ピア クラスタ パブリッシャ ノードに変更されたクラスタを追加します。
- ステップ 4** 手順を実行する前に SSO を無効にした場合、この時点で有効にできます。SSO を有効にする方法については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』の「Single Sign-On Configuration」の項を参照してください。
- ステップ 5** IM and Presence サーバのホスト名を変更し、別のエンタープライズとフェデレーションしている場合は、フェデレーション ルーティング完全修飾ドメイン名 (FQDN) パラメータを変更し、新しいサーバアドレスを指すようにする必要があります。Cisco Unified CM IM and Presence の管理で、次の作業を実行します。
- [システム (System) ] > [ サービス パラメータ (Service Parameters) ] を選択します。
  - サーバを選択します。
  - [Cisco SIP Proxy] サービスを選択します。
  - クラスタ全体のフェデレーション ルーティング パラメータ (フェデレーション ルーティング CUP FQDN) を、新しい FQDN に変更します。
- ステップ 6** 手動で DRS バックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなすべてのサービスが正しくバックアップされていることを確認します。
- ステップ 7** 次のように RTMT のカスタム警告と保存済みプロファイルを更新します。

- パフォーマンス カウンタから得られた RTMT カスタム警告には、サーバの IP アドレスがハードコードで記録されています。これらのカスタム警告を削除し、再設定する必要があります。
- パフォーマンス カウンタを備えた RTMT 保存済みプロファイルには、サーバの IP アドレスがハードコードで記録されています。これらのカウンタをいったん削除してから追加し直した後、プロファイルを保存して新しい IP アドレスで更新する必要があります。

**ステップ 8** 関連する他の Cisco Unified Communications コンポーネントで設定上の変更が必要ないか確認し、適宜変更します。このコンポーネントには次のものがあります。



(注) 必要に応じて設定を変更する方法については、ご使用の製品のマニュアルを参照してください。

- SIP トランク
- IM and Presence サーバでトレース収集や DRS バックアップの保存先として使用される SFTP サーバ
- Cisco Jabber
- 関連するルータおよびゲートウェイ
- IBM Lotus Sametime などのサードパーティ クライアント

**ステップ 9** すべてのノードで、サービスが稼働していることを確認します。サービスを起動する必要がある場合は、次のコマンドを使用して、次の順序で IM and Presence サービスを起動します。

- `utils service start Cisco XCP Config Manager`
- `utils service start Cisco Route Datastore`
- `utils service start Cisco Login Datastore`
- `utils service start Cisco SIP Registration Datastore`
- `utils service start Cisco Presence Datastore`
- `utils service start Cisco XCP Router`
- `utils service start Cisco Sync Agent`
- `utils service start Cisco SIP Proxy`
- `utils service start Cisco OAM Agent`
- `utils service start Cisco Presence Engine`
- `utils service start Cisco Client Profile Agent`
- `utils service start Cisco Intercluster Sync Agent`
- `utils service start Cisco Config Agent`

**ステップ 10** ホスト名または IP アドレスを変更する前にハイアベイラビリティ (HA) が無効にされていた場合は、すべてのサブクラスターの HA を有効にします。Cisco Unified CM IM and Presence の管理で、[ システム (System) ] > [ クラスタートポロジ (Cluster Topology) ] を選択します。HA を有効にする方法の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

**ステップ 11** ノードの IP アドレスまたはホスト名を変更した後は、手動で DRS バックアップを実行する必要があります。これは、DRS ファイルでノードを復元するには、DRS ファイルとノードで IP アドレスとホスト名が一致している必要があるからです。変更後の DRS ファイルには、新しい IP アドレスや新しいホスト名が記録されています。

**関連トピック**

- 『*Disaster Recovery System Guide*』
- 『*Interdomain Federation for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』







## CHAPTER 6

# IM and Presence クラスタの SIP ドメインの変更

- 「デフォルトのドメイン値の置換」(P.6-1)
- 「ドメイン値の変更」(P.6-2)

## デフォルトのドメイン値の置換

ドメイン名は、IM and Presence サーバの DNS ドメイン名を指定します。IM and Presence のドメイン名は、デフォルトで自動的に DOMAIN.NOT.SET になります。SRM をハイアベイラビリティ展開で正しく初期化するには、デフォルトのドメイン名を DNS ドメイン名に置き換える必要があります。

ネットワークで DNS を使用しておらず、インストール時にドメインを設定していない場合に IM and Presence を正しく機能させるには、このデフォルト値を全社レベルのドメインに置き換え、ノード名を IP アドレスとして設定する必要があります。

この設定を IM and Presence クラスタにあるすべてのノードで実行します。

### 手順

- ステップ 1** 新しいドメイン値を設定するには、次の手順を実行します。
- [IM and Presence の管理 (IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。
  - 右ペインで、[設定 (Settings)] を選択します。
  - 新しいドメインで [ドメイン名 (Domain Name)] 値を設定します。
  - [IM and Presence の管理 (IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択し、[Cisco SIP Proxy] サービスを選択します。
  - 新しいドメインでフェデレーションルーティング IM and Presence FQDN を設定します。
  - これらの設定変更を確認するプロンプトが表示されます。両方のプロンプトで [OK] を選択し、[保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 2** 次の CLI コマンドを使用して、新しいドメインを設定します。
- ```
set network domain <new_domain>
```
- この CLI コマンドを使用すると、サーバが再起動します。
- ステップ 3** ローカル IM and Presence サーバ上で、すべての証明書を手動で再生成します。



(注) Tomcat 証明書を再生成した場合は、Tomcat を再起動する必要があります。ローカル サーバ上ですべての証明書を再生成した後、Tomcat を再起動できます。次の CLI コマンド **utils service restart Cisco Tomcat** を使用して Tomcat を再起動します

## ドメイン値の変更

ドメイン値を変更（1 つの有効なドメイン値から別の有効な IP プロキシ ドメイン値に変更）する場合は、次の手順を実行します。

DNS または非 DNS 展開が存在する場合、この手順を適用できます。



(注) DNS 展開を使用することを強く推奨します。有効であるを見なすためには、ドメイン値が DNS ドメイン名に一致する必要があります。有効なドメイン名を使用することで、ハイアベイラビリティ展開で SRM を正しく初期化できます。

### 手順

- ステップ 1** クラスタにあるすべてのノードで、IM and Presence 上の Cisco SIP Proxy、Presence Engine および XCP Router サービスを停止します。
- ステップ 2** パブリッシャ ノードで、次の手順を実行して新しいドメイン値を設定します。
- a. [IM and Presence の管理 (IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。
  - b. 右ペインで、[設定 (Settings)] を選択します。
  - c. 新しいドメインで [ドメイン名 (Domain Name)] 値を設定します。
  - a. [IM and Presence の管理 (IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択し、[Cisco SIP Proxy] サービスを選択します。
  - b. 新しいドメインでフェデレーション ルーティング IM and Presence FQDN を設定します。
  - c. これらの設定変更を確認するプロンプトが表示されます。両方のプロンプトで [OK] を選択し、[保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 3** クラスタ内のすべてのノードで、この CLI コマンドを使用して新しいドメインを設定します。
- ```
set network domain <new_domain>
```
- この CLI コマンドを使用すると、サーバが再起動します。
- ステップ 4** 再起動の完了後（必要な場合）、クラスタ内のすべてのノードで、Cisco Presence Engine サービスおよび Cisco XCP Router サービスを手動で起動します。
- ステップ 5** クラスタ内の各ノードで、すべての証明書を手動で再生成します。



(注) Tomcat 証明書を再生成した場合は、Tomcat を再起動する必要があります。ローカル サーバ上ですべての証明書を再生成した後、Tomcat を再起動できます。次の CLI コマンド **utils service restart Cisco Tomcat** を使用して Tomcat を再起動します

- ステップ 6** ネットワークで DNS を使用する場合は、新しいドメインのために DNS 設定を更新します。新しいドメインに必要なホスト レコードおよび DNS SRV レコードを更新します。
- ステップ 7** 新しいドメインで XMPP クライアントを設定します。
-





# CHAPTER 7

## IP アドレス変更後の IM and Presence および MOC 相互運用性の検証

以前は Microsoft LCS/OCS に統合されていた IM and Presence サーバ上のホスト名または IP アドレスを変更した場合のみ、この手順の作業を実行します。Microsoft Office Communicator (MOC) サーバおよびクライアントが正しい IM and Presence IP アドレスとホスト名 (変更後)、および FQDN を反映していることを確認する場合に、この手順を実行する必要があります。

### はじめる前に

変更後の作業リストを完了します。

### 手順

- ステップ 1** 実行している場合は、既存の MOC クライアント セッションからサインアウトします。
- ステップ 2** OCS サーバまたは LCS サーバにサインインします。
- ステップ 3** OCS サーバまたは LCS サーバ上の次のタブで、[フロント エンドのプロパティ (Front End Properties)] を編集します。

タブ	アクション
[ルーティング (Routing)] タブ	<p><b>a.</b> 名前変更された IM and Presence サーバを新しい FQDN および IP アドレスに更新します。</p> <p><b>b.</b> ワイルドカード化された IM and Presence ドメインの [次ホップ (Next Hop)] の IP アドレスを新しい IM and Presence IP アドレスに変更します。</p>
[ホストの承認 (Host Authorization)] タブ	<p>新しい IM and Presence IP アドレスおよび新しい FQDN が次のように一覧表示されていることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>[送信のみ (Outbound only)] : [N]</li><li>[サーバとして帯域を制限する (Throttle as server)] : [Y]</li><li>[認証済みとして扱う (Treat as Authenticated)] : [Y]</li></ul>

- ステップ 4** [LCS/OCS ユーザ (LCS/OCS Users)] を右クリックし、次のように編集します。
- a.** [サーバ URI (Server URI)] を新しい IM and Presence FQDN に変更します。
- b.** [OK] を選択します。
- ステップ 5** OCS/LCS フロント エンド サービスを停止します。
- ステップ 6** OCS/LCS フロント エンド サービスを再起動します。

**ステップ 7** MOC クライアントにサインインし、シスコ デバイスの制御を確認します。

---

**関連トピック**

- 『Integration Note for Configuring IM and Presence with Microsoft OCS for MOC Call Control』
- 「[変更後の作業リスト](#)」(P.5-1)



## CHAPTER 8

# マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

---

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

## シスコ製品のセキュリティ

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国の法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、次の URL で参照できます。

[http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear\\_data.html](http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html)





©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>